

授業レポート CLASS REPORT

生徒の目が輝く！ アクティブ・ラーニングの 考えを取り入れた授業(2) —GETにおける授業の工夫—

枝 迫 香 葉 Edasako Kana (鹿児島県奄美市立名瀬中学校)

1. はじめに

「アクティブ・ラーニング」と聞くと、プレゼンテーションや討論などをイメージし、少し敷居が高いと感じる方もいるかもしれません。しかし、「アクティブ・ラーニング」は特定の授業の型などを意味するものではなく、生徒の能動的な学びにフォーカスした教授・学習法を指します。つまり、授業の様々な場面において、その考えを取り入れ、授業を改善することが可能であるということです。

そこで、今回は、「アクティブ・ラーニングの考えを取り入れたGETの授業」というテーマで実践を行うことにしました。年間の授業の中でくり返されるGETの授業をよりアクティブなものにできれば、次のようなことが期待できると考えたからです。

【GETの授業をアクティブにすることの意義】

- ① 主体的・協働的に学ぶ場面をくり返し経験することで、思考力・判断力・表現力を高めることができる。
- ② ①のようにして高められた力を、単元や学期の最終的なタスク(パフォーマンス課題等)に生かすことができる。

授業の流れや1つ1つの活動は、単純でありふれたものですが、それぞれの活動の中で生徒の思考がよりアクティブに保たれるように工夫しました。今回は、Lesson4 GET Part 2の流れと、それぞれの活動における工夫を合わせて紹介します。

2. GETの授業の流れとワークシート

私の場合、GETの見開き1ページを基本的に2時間で扱うようにしています。そのうち前半の1時間は、新出表現の導入とその活用練習、後半の1時間は、本文の聞き取りや読み取りを中心とした授業

を行います。これらの2時間に対して次のようなワークシートを1枚使用します。

Lesson 4		Get Part 2		P 1 5	
Enjoy Sushi		What like vegetable garden	野菜 園	【聞き取りのポイント】	
This is the vegetable garden of our class. We				① 久美のクラスの生徒が好きなことを2つ書こう！	
教科書の本文		語句		聞き取りのポイント	
class will enjoy cooking and eating them.		*enjoy *eat *take care of... organize			
【「〜すること」という種の表現】		☆ 「自分の好きなこと」を2つをしよう！			
○ 私はサッカーが好きです。		cook watch TV read books play sports eat listen to do my homework school lunch			
○ 私はサッカーを愛するが(愛すること)好きです。		new new pictures water bottles using stamps poster campaign			
○ 私はサッカーを愛するが(愛すること)好きです。		walk dance go to AEON play music talk with Megumi			
※ 「-ing」のつけ方は「進行形」と同じ、特別な形に注意しよう！		☆ 「友達の良いこと」について英文書いてみよう！			
① そのまま ing をつける play -					
② 最後の e を取って ing をつける see -					
③ 最後の m や n を置いて ing をつける swim -					

なお、今回は、2時間の内の前半1時間の詳細について紹介します(ワークシートでは、下段)。

3. 授業の実際

(1) ウォームアップ

授業の初めには、ウォームアップとして、テーマに基づいた簡単な対話活動を行います。今回のテーマは“My favorite ice cream”として、次のように指示しました。

- Exchange greetings first.
- Ask your partner's favorite flavor.
- If he/she likes the same flavor as you, you can get one point.
- When you get three points, please sit down.

“Ready. Go!”の合図で生徒は、一斉に席を立ち、パートナーを替え、対話をくり返します。立っている生徒が少なくなったら、“Which flavor do you like? Oh, you like strawberry. Who likes strawberry? Raise your hand.”などと教師が話して、活動のまとめを行い、本時のタスク「自分の好きなことについて話をしよう」を確認しました。

(2) 新出表現の導入

新出表現の導入では、ウォームアップの活動で用いた“Which ... do you like?”の形を用い、好きなスポーツについて、生徒と次のような流れでインタラクションを行いました。

- ① What sport do you like?
— I like soccer. / I like volleyball.
- ② Which do you like, playing soccer or watching soccer?
— I like watching soccer.
- ③ Which do you like, watching soccer or watching volleyball?
— I like watching volleyball.

今回は、「動名詞」が新出表現でした。そのため、②に対して“1 like watch soccer.”と答える生徒もいましたが、“Oh, you like watching soccer! How about you? Do you like watching soccer?”のように返し、生徒が徐々に気づけるようにインタラクションを行いました。その後、次のように指示しました。

- ・対話の中で気づいたことをペアで話しましょう。
- ・話し合うときは膝を向かい合わせて、終わったら前を向きましょう。

全てのペアが前を向くの待ち、生徒の考えを聞きながら、新出表現である「動名詞」について板書し、確認をしました。

その後、ウォームアップと同じ要領で、“Which do you like doing?”という質問に対し、watching TV, playing sports, reading booksの中から1つ選んで答える活動を行いました。このような活動を通して、新出表現の形・意味・用法を十分に理解させた後、プリントを配付し、板書を書き写させました。

(3) 新出表現の活用練習

新出語句の活用練習として、今回は「自分の好きなことビンゴ」を行いました。具体的には下の表を使い、“What do you like doing?” “I like eat-

cook	watch TV	read books	play sports	eat school lunch
study	listen to music	do my homework	see movies	swim
sleep	run	talk with my friends	play with my friends	fish
clean	draw pictures	write letters	sing songs	learn English
walk	dance	go to AEON	play music	talk with Megan

ing school lunch.”などの対話をしながら、ビンゴを目指します。

活動を行う前に、語句の確認をするため次のような指示をしました。

- ・表中の語句の、発音と意味をペアで確認しましょう。
- ・ペアで話し合っても分からないものは、調べたり先生に質問したりしましょう。
- ・活動は立って行い、終わったら座りましょう。

全てのペアが終わるのを待ち、質問の多かったものや、机間指導の中で気づいたことなどを全体で確認し、その後活動を行わせました。

なお、活動で使用した表の作成には、教科書のWord Cornerや、指導用CD-ROMのtango dataを用い、できるだけ多くの種類の動詞を使用するようにしました。

(4) 本時のまとめ

最後に、本時のまとめとして、活動の内容を英文で書いてまとめさせました。指示は次の通りです。

- ・対話の中でわかった、「友達の好きなこと」について2文以上の英語で書きましょう。
- ・終わったら先生のチェックを受けましょう。
- ・合格したら、まだ終わっていない人のサポートをしましょう。

生徒が書いた英文の中には、次のような誤りが多くありました。

- × Reona like playing sports.
- × Haruna likes write letters.
- × Kotaro likes talking with my friends.

これらの誤りがある場合は、正しい表現を確認した上で、再度、別の友達について書いてくるように指示しました。また、正しく書けた生徒は、「○○君を助けてあげて」などと指示し、サポートをさせました。

最後に、誤りが多かった表現について全体で確認し、授業を終わりました。

4. GETの授業をアクティブにする工夫

以上のように、GETの授業では、実際に対話をしたり英文を書いたりする活動を多く取り入れた授業を展開しました。それらの活動を通して、授業をよりアクティブにするために、次のような工夫をしました。

①活動の始まりと終わりを明確にする

「立って話をし、終わったら座る」、「膝を向かい合わせて話をし、終わったら前を向く」といったように、活動の始まりと終わりがはっきりわかるように指示を出します。このようにすることで、教師は生徒が必要とする時間を見極めることができますし、早く話し合いが終わるペアと、なかなか進まないペアのそれぞれに必要なアドバイスをしたり、その後の指名計画を考えることもできます。

また、生徒同士でも、周囲のペアの様子を確認することができ、「他のペアに遅れないように」「他のペアよりも良い答えを」といったように刺激となります。結果として、活動にメリハリが生まれ、アクティブな授業となります。

②自分たち自身を題材にした活動にする

新出表現の導入として行ったインタラクションでは、“Which do you like, watching soccer or watching volleyball?”という質問に対して、意見が分かれました。興奮した生徒たちからは、「サッカーなんて2時間も見て1点も入らないことがあるでしょう?」「入りそうで入らないところがおもしろいんだ!」といった声が上がりました。残念ながら、これらの意見は日本語で交わされたのですが、生徒がこのことについてもっと話したい、他の人の意見を聞きたいと思える題材を選ぶことがとても大切だということがわかります。その後の活動で「ビンゴ」を選んだのも、「あと“listen to music”がそろえばビンゴだ! 音楽を聴きそうな人は誰だろう?」と考えながらペアを見つけることで、生徒はより積極的に活動に取り組むことができると考えたからです。そのため、ビンゴの表を作る際には、生徒一人ひとりを思い浮かべながら、それぞれに合った選択ができるように留意しました。

③書いてまとめる活動を取り入れる

口頭でのやりとりは、短い時間の中で多くの発話を促し、生徒の集中力が持続する活動です。一方で、意味を伝えることに重点が置かれるため、表現の正確性については曖昧になってしまいがちです。そこで、活動の内容を書いてまとめることが大切になります。それまでは「意味を伝える」ということに思考の重点が置かれていますが、書く活動になった瞬間に、「ここには-ingが必要?」「動詞の-sってど

んなときに付くんだっかな?」と「正しい英文を書く」ことに思考の重点が置かれるようになります。授業の終盤であっても、このように思考のスイッチが行われるような活動を取り入れることで、授業をアクティブにすることができるのです。

また、このような活動では、生徒の理解度によって、活動のスピードにかなりの差が出ます。その際に、早く終わった生徒が、他の生徒をサポートできるように指示すると、教える生徒にとっても、教えられる生徒にとっても、充実した時間を過ごすことが可能となります。

④教師と生徒の発話時間を意識する

授業後に、自身の授業を評価する際には、教師と生徒の発話時間の比率を考えます。例えば、今回の授業では、次のようであったと評価しました。

場面	教師の発話	生徒の発話
(1)ウォームアップ	約2割	約8割
(2)新出表現の導入	約3割	約7割
(3)新出表現の活用練習	約2割	約8割

新出表現の導入場面では、教師の発話が多くなりがちです。しかし、今回は、生徒の発話を増やすことを意識し、インタラクションの中でポイントを捉えさせたり、気づいたことをペアで話し合わせたりすることで、教師の発話を最小限に抑えることができました。このように、毎日の授業の教師と生徒の発話時間を分析することで、アクティブな授業作りに対する教師のモチベーションも高められます。

5. おわりに

現在担当している2年生の生徒とは、1年次よりこのような授業をくり返し行ってきました。今ではすっかり授業のスタイルに慣れ、短い指示でもてきぱきと動けるようになりました。最近、生徒から「英語の授業は忙しい。脳みそに汗をかきそう」と言われました。「50分間、常に生徒の思考をアクティブに保ちたい」と考えている私にとっては、最高のほめ言葉だと感じました。まだまだ分からないことや課題は多くありますが、生徒の脳にもっと汗をかかせられるよう、研究を進めていきたいと思えます。